アレクサンダー大王（1980）

O MEGALEXANDROS
ALEXANDER THE GREAT

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 ギリシャ／イタリア／西ドイツ
時間 208分
初公開日 1982/03/20
公開情報 フランス映画社

【解説】
題名の古代ギリシアの英雄（解放者としての）伝説を下敷きに、その名を騙る２０世紀初頭に暗躍した盗賊の頭の、義賊としての行動と、追いつめられての蛮行を歴史絵巻的に描く。孤島の刑務所を脱獄した一行（１９世紀最後の夜だ）は、ポセイドンの神殿で２０世紀の日の出を眺める英国貴族たちを誘拐、自分たちの恩赦、英国による炭鉱採掘に反対する農民らの土地所有権の承認を求めた。が、政府の回答は身代金は払うがその他の要求は呑めないというものだった。彼らは途中５人のイタリア人アナーキストを加え、自分らの生まれ故郷である北部の村に向かう。そこは“先生”と呼ばれる指導者の下、既に共産化していた。“大王”の部下たちは私有財産の認められないことに不平をこぼし、示威行為に羊を何頭か殺す。政府軍に村が包囲されたこともあって、村民は彼らに嫌悪感を示し始めた。地主は土地返却に応じたが、これに陰謀の匂いを嗅ぐ先生。戻った土地を以後どうするかで揉める村民。共産制はあえなく挫折だ。逃亡を図るイタリア人たちも殺された。大王は形式的な裁判に応じて特赦となる道を選んだが、検事を殺し、自分も暗殺されかけたことに激怒し、遂に人質までも……。裁判の取材に答える形で明らかになる大王の過去、その回想の場面が鮮烈である。悠然とたゆたう映画に、まさにギリシア悲劇的な異彩が放たれ、息を呑むしかない。

【クレジット】

監督	テオ・アンゲロプロス	Theo Angelopoulos
製作	ニコス・アンゲロプロス	Nikos Angelopoulos
脚本	テオ・アンゲロプロス	Theo Angelopoulos
	ペトロス・マルカリス	Petros Markaris
撮影	ジョルゴス・アルヴァニティス	Yorgos Arvanitis
音楽	クリストドゥス・ハラリス	
出演	オメロ・アントヌッティ	Omero Antonutti
	エヴァ・コタマニドゥ	Eva Kotamanidou
	グリゴリス・エバンゲラトス	

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.